



3代目店主森井勝己さん

「清凌亭」(清水町) 一世紀にわたるおもてなし

3代目店主の森井勝己さん(81歳)は「昭和30年代半ばから60年頃にかけて、花見のシーズンには昼だけで団体客が3回転ありました」と当時を振り返ります。また、「昭和57年のくにびき国体も印象に残った出来事の一つです。長野・新潟県の女子選手団の宿泊先になり、私も会場に応援に行きました。選手から頂いたお礼の寄せ書きは今でも大切にしています」と思い出の数々を語ります。

間もなく杉のみどりを染める桜の季節です。この桜や薩雲若池と共に歩み、境内の風景に溶け込んできた清凌亭。これからも多くの人々の記憶に残り続けることでしょう。

先代の跡を継ぎ数十年、清水観光の最前線に立ってきた森井さん。「清水名物の精進料理は若い人たちに、今も受け継がれています。訪れてくださる皆さんに感謝しながらおもてなしを伝え続けてほしいと願っています。笑顔があれば人々は来てくださると思いますよ」と次の世代にエールを送ります。「私自身、皆さんのおかげでここまでやってくることができました。皆さんにとっても感謝しています」。



池の畔に建つ元旅館

歌手島倉千代子さんが唄う「清水小唄」の三番に三重塔の下にある「薩雲若池」が登場します。この池の畔に建つのが元旅館「清凌亭」。長い間、参拝客や観光客に親しまれてきましたが、建物の老朽化が進んだことでこのほど解体されることになりました。2月18日には、「感謝となごりの茶会」が開かれ、多くの皆さんが訪れました。駆けつ

けた荒井昭子さんは「お座敷でよく同窓会を行いました。2階の窓から見る池は風情がありましたし、春には目の前に見える満開の桜が見事でしたよ」と当時を懐かしみます。「清凌亭」は大正時代、札打ちに来た人に場を提供する「座敷貸し」が前身。その後、昭和15年頃に飲食店となり、今日も続く精進料理などを提供。昭和29年には旅館として営業し、100年以上に渡って境内の風景の一部として池の畔に佇んできました。



▲薩雲若池に面した清凌亭の後ろには三重塔が建っています。

編集後記

▼島根に住む外国人の皆さんにインタビュ。□をそろえて出たのが敬語への悪評。意味が理解しにくい、よそよそしく距離を感じる、心を開いていないなど散々でした。うなずきながら聞く、私のインタビュも敬語。徐々にシフトしていったのはいうまでもありません。(山)

▼今号の発行日には、表紙の三人は未来に向かって旅立っていることでしょう。春になり、楓の木が芽吹いてきました。その葉は太陽の光を浴びてこれから大きくなっていきます。楽しいことの一方で辛いことがたくさんあると思います。でも楓葉のように、ひと霜ひと雨ごとの困難が、人生を色づかせてくれると思います。(の)

安来市の人口と世帯数 H30.2.28現在

人口合計／ 39,289人
(男:18,827人 女:20,462人)
世帯数／14,261世帯



古紙パルプ配合率70%再生紙を使用

- 資源保護のため、この広報紙は再生紙を使用しています。
- 広報紙にあなたの写真が載りましたら、差し上げますのでご連絡ください。
- 自治会宛の発送等につきましては、地域振興課(☎23-3067)までご連絡ください。